

「小石川について知りたいこと」Q&A [2]

学校生活（学習）

Q 入学後はどのように勉強を進めていけばよいですか。

A 学校の授業と課題を中心に学んで下さい。

Q 授業の復習をするためには、家庭学習は何時間くらい必要ですか。

A 家庭学習は、学校の課題を中心に毎日1～2時間程度取り組んでください。

Q 授業の内容がわからないときに生徒はどうしていますか。学校では補習や居残り学習をしていただけるのでしょうか。

A 友達に聞くことで解決できることが多いようです。授業後や放課後に先生に個別に質問する生徒もたくさんいます。教科によっては授業中に小テストを行いその結果で補習や追試を行うこともあります。放課後は部活動で探究活動やディベートを行ったり、講演会に参加したりすることで、学力の向上につながると考えています。

Q 前期課程から後期課程への進級に条件はありますか。

A 進級意思確認書を提出し入学金5650円（令和2年度例）を収めることで後期課程に進級できます。

Q 成績がクリア出来ない場合に退学、留年がありますか。

A 後期課程（高校生）においては、進級規定があり、授業への出席状況と成績により判断されます。

Q 中学・高校時の教科書、副教材は何を使っていますか。

A 検定教科書の他に体系的に学べる副教材を各教科で使用しています。各学年各教科の使用教科書・使用教材は、学校ホームページ「学校案内」の「教育目標・カリキュラム」の年間授業計画で閲覧することができます。

Q 習熟度別で授業を実施している科目とその学年を教えてください。

A 数学と英語は6年間を通じて習熟度別授業を行っています。

Q 提出物や課題の量が多いか少ないかを知りたいです。

A 多いか少ないかは生徒により感じ方は異なりますが、学んでいる内容を理解し定着させるために必要な量の課題を出しています。

Q 授業の進度は早いですか、ゆっくりですか。

A 中等教育学校の特性を生かし6年間で中高の内容を学びますので、高校の内容を前期課程（中学）で行うこともあります。授業の進度は各教科の6年間のシラバスをもとに生徒の様子をみながら、適切に調整しています。各教科の年間授業計画は学校ホームページ「学校案内」の「教育目標・カリキュラム」で閲覧することができます。

Q 小石川ならではの授業スタイルを教えてください。

A 小石川は教養主義を理念としており、すべての教科・科目を深く学びます。そのため、一般の高校のように高校2年段階で理系・文系といったコース分けは行いません。受験に使わない教科科目を学ばないという考えではなく、5年までに全教科全科目を学んだ上で自分の進路を考えていきます。

Q 学習のサポートについて、放課後や長期休暇などにおいてどこまできめ細かく対応していただけるか教えてください。

A 長期休業中は各学年で講習を行っています。各教科から宿題も出され、始業式の日には宿題確認テストも行っています。

Q 授業の前後に先生への質問等は皆さん積極的に行っているのでしょうか。放課後に先生に質問ができたり、学習をサポートしてくれますか。

A 授業後に質問をする生徒は多いです。放課後も職員室前や教科室前で質問をしたり、チューター制度を利用したりする生徒もいます。

Q 塾に行かないと、授業についていけないこともありますか。授業内容の補習のために塾に通う子はどれくらいいますか。

A 授業と課題に取り組みはついていけないということはありません。1年生の2学期で通塾している生徒は2割程度（週1回程度）で、何かを究めたり実力養成のために通っている生徒が多いようです。小石川では、授業以外のさまざまな学びや活動がたくさん準備されていますので、興味をもったことに積極的に取り組んでほしいです。

Q 新型コロナウイルス感染予防による自粛期間中の学習指導や活動、取り組みなどを教えてください。

A 臨時休業期間中は、自宅での課題学習やオンラインを活用した学習支援を行ってきました。生徒は学年ごとの時間割にしたがって、提示された課題に取り組んできました。新しい単元の理解をうながすための解説動画の作成、テレビ会議システムによるHRや授業、電話やオンラインなどで個々の質問にも対応してきました。また、学習の振り返りとして、WEBテストやWEBアンケート、記述答案の添削などを行い、理解度の確認も行ってきました。そのため、学習進度が大きく遅れることなく、学習を進めてきました。

キャリア教育

Q 進路指導はどのように行われますか。

A 前期課程（中学生）では職業観の育成を行います。1年生で東京寺子屋（職業人とのワークショップ）、2年生で職場体験を実施します。3年生夏休み後から将来の自分を実現するための進路指導がはじまります。4年、5年でオープンキャンパスに参加、校内における分野別模擬講義、大学の研究室訪問などを通して、将来の自分を実現するためにどの大学で何を学ぶのかを考えていきます。

Q 大学進学についての進路指導はいつ頃から行われますか。

A オーストラリア語学研修を終えた3年生の夏休み後から行います。

Q 大学受験対策をどのように考えていますか。

A 本校では、教育方針である小石川教養主義に基づき、学問の本質につながる授業を行っています。5年までに全教科全科目を深く学ぶことで国立や私立難関大学の入試問題にも対応できるようになります。6年生の特講（自由選択講座）では、教養主義教育にプラスして、大学受験に必要な内容や自分が究めたい分野を学びます。

Q 学校の授業と家庭学習だけで、大学受験をすることを希望しています。

塾に行くことを前提とした授業、補習や受験対策は塾でやるのが暗黙の了解という学校もあると聞いておりますが、小石川も同ような指導方針でしょうか。

A 学校の授業と家庭学習、授業外に学校の先生に質問や添削指導を受けて大学受験をする生徒もいます。予備校に行かずとも難関国公立大学に毎年合格しています。小石川では、授業の学習活動を軸に学校から出される課題を行いながら、6年間の学習を進めていく指導方針です。

Q 大学入試への取り組みはどういったものがありますか。

A 文理分けをせず、全員が全教科全科目を学ぶ小石川教養主義は、5教科7科目型の国公立大学受験に対応できます。また、分野別模擬講義や大学の研究室訪問、SSH事業で、自らの将来像、学びたい大学を選択していきます。自習室やチューター制度などもあり、自ら学ぶ姿勢を築くことができます。4年、5年は1月のリアルセンター試験（センター試験当日に全国の高3生が受けている同じ問題を解答）のほか、年に数回の模擬試験を学校で受験します。これらの結果を通して自らの弱点を見つけ出し、克服していきます。5年の秋からは個人面談を重ねて、大学で学ぶ分野選択・6年時の講座選択を具体的に考えていきます。6年生1月の国公立大学出願の際には自己採点の結果をもとに受験相談を行う体制をとっています。

Q 小石川中等教育学校には、お医者さんを目指している人はどのくらいいますか。貴校のカリキュラムで国公立医学部を目指すことは可能でしょうか。

A 1学年160人で7～8人ぐらいです。一般的な高校としては多い方だと思います。本校のカリキュラムは、すべての教科・科目を高いレベルで学ぶので、国公立医学部の受験も十分に可能です。本校では放課後に医学部進学予備校の講師にチューターをお願いしており、勉強だけでなく医師を目指す心構えについて相談することができます。また、医学部を志す生徒には、病院主催の一日医師体験への参加を促し、将来医師という職業に就くということについてさまざまな視点から考えるように勧めています。

Q 大学などの進路で理数系を希望していないと御校への入学は推奨されないのでしょうか。

A 大学受験時は、本人の志望により文系・理系等志望する学科を選択します。今年の6年生は9月時点で53%が文系、47%が理系です。本校は小石川教養主義のもと、文理問わず、論理的思考力の獲得や人格の涵養を目指しています。6年間の学びの中で将来自分がやりたいことを見つけてほしいと思っています。